

戦争体験者は語る

今年、戦後75年を迎え、戦争の時代を生きた人たちの声を聴く機会が減っていくなか、ここでは、あらためて戦争の悲惨さや平和の尊さを見つめ直す機会として、体験者の想いをご紹介します。

二度と同じ過ちを
繰り返してはならない。

私が生まれたのは太平洋戦争（大東亜戦争）が始まる13年前の昭和3年です。当時は、国民学校（小学校）を卒業すると、進学しない人は、青年学校で主に軍事教練を行い、銃の手入れや扱い方などさまざまな訓練を行いました。空襲が多くなると防空壕を掘れとの指示があり、家のそばに1か所掘っていました。防空壕は、家のそばのほかにも、学校や当時の相野谷村役場の近くなどにも掘っていました。

夜中に空襲警報のサイレンが鳴ると、自分の身を守る前に、学校に行き天皇陛下の御真影（天皇陛下の写真）を納めてある奉安殿から取り出して、防空壕に入ったりますこともありました。戦争が激化してくると昭和19年に、自発的ではないですが海軍通信兵に志願しました。軍隊には14歳から志願でき、私だけでなく、紀南青年学校全校生徒と相野谷の国民学校高等科2年生の全員が志願しました。志願した人の中には私と同じように自発的ではなく、学校から無理に勧められた人、悲壮の決意をもって志願した人など、さまざまです。



紀南青年学校閉校式（前から4列目の左から4人目が仲さん）



仲 伊万さん（92歳） 終戦時17歳

昭和20年3月、防府海軍通信学校（山口県）に入校するよう通知が届いたときには、どうすることもできない運命に、身を任せるほかありませんでした。通信学校では、一日中モールス信号の練習をしていました。テストもあり、成績の悪い人がいると連帯責任で全員が罰を受

けるということもありましたが、戦争が終わったことは知らされていなく、玉音放送も予告されていなかったのを知ったのは翌日の8月16日でした。それまでは、上陸してくる戦車に対して爆弾を背負って近づき、爆弾を投げ込む訓練をしていました。私は、自分が味わった戦争の酷さ、無意味さ、悲しさを語り継ぐことで、改めて平和の尊さを訴えていきたいと思っています。



特集 75回目の夏が来る

決して風化させては
いけない記憶がある

昭和20年8月15日、昭和天皇の玉音放送で終戦が告げられた先の大戦から今年で75年目になります。先の大戦では、兵役に召集された多くの若者が戦火に散り、国内の各地域でも空襲などにより多くの命が失われました。この地方も例外ではなく、町内出身の戦没者は516人にものぼりました。また、戦没者の方だけでなく、多くの人の未来が奪われました。しかし、時の流れは無常なもので、75年という月日は、忘れてはならない戦争の記憶を風化させていきます。私たちは、この事実を知り、二度と戦争の惨禍を繰り返さないため、また平和の尊さを改めて考える機会として、今回の特集では戦争を体験された方の体験談をご紹介します。



01. 旧神内小学校での竹やり・射撃訓練。02. 昭和19年には、旧井田小学校のグラウンドが畑になった。03. 在郷軍人の指導で竹やり訓練をする大日本婦人会井田支部・井田女子青年団。写真01～03 町教育委員会蔵

終戦までの社会情勢と紀宝町

町に関係のあるものは赤字で表記

昭和6年9月18日	満州事変勃発
昭和12年7月7日	日中戦争勃発（支那事変）
昭和16年12月8日	太平洋戦争勃発（大東亜戦争）
昭和19年1月3日	井田沖を航行中の貨物船が米潜水艦の攻撃を受け沈没
昭和19年6月	学童疎開が決定し、町内にも縁故を頼り、都市の子どもたちが疎開
昭和20年3月10日	東京大空襲
昭和20年4月1日	米軍が沖繩に上陸
昭和20年5月11日	鶴殿駅近くに爆弾が落とされ、小学生が犠牲になる
昭和20年6月22日	熊野大橋が爆破され、大破
昭和20年8月6日	広島に原子爆弾が投下される
同年8月9日	長崎に原子爆弾が投下される
昭和20年8月15日	昭和天皇の玉音放送（終戦）

